2011（平成23）年
12月1日
第127号
毎月発行

西東京市 公民館だより

編集 公民館だより編集室
発行 西東京市公民館

●柳沢公民館 柳沢1-15-1 TEL 464－8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
●田無公民館 南町5-6-11 TEL 461－1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
●芝久保公民館 芝久保町5-4-48 TEL 461－9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp
●谷戸公民館 谷戸町1-17-2 TEL 421－3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
●ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 TEL 424－3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
●保谷駅前公民館 東町3-14-30 TEL 421－1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

公民館保育室ってどんなところかな♪

公民館保育室をご存知ですか？

西東京市の６つの公民館のうち、柳沢・田無・芝久保・谷戸・ひばりが丘の5館に保育室が設置されています。公民館は社会教育機関として、様々な人々の学びの場。乳幼児を育てている市民が、公民館での学習活動に参加できるように設けられたのです。

・・・なぜ公民館に保育室があるの？

子育て中でも学びたいと願う母親たちの強い要望により、専用の保育室が誕生しました。それ以前は、和室を代用した保育付きの婦人学級が行われていたこともありました。保育室の開設で、母親たちは安心して学習することができるようになり、地域に根ざした活動が生まれてきました。子どもたちの未来をよりよいものにしたい、子育てがしやすい街づくりをしていきたいなど、様々な願いを抱く人々が集って学びあうことで、地域はより発展していきます。公民館保育室は地域の担い手となる母親の学習を支援する施設なのです。そして、保育員が見守る安心な環境の下、周囲との関わりの中で、子どもも学んでいます。

利用方法		保育時間	保育料	保育する人	申請方法
学習支援保育	**公民館主催講座（保育付き）**を受講する	10時～12時	無料（市の予算でまかなわれます）	公民館保育員	該当の講座に申し込む
	★保育付き自主グループで活動する	10時～12時	無料（市の予算でまかなわれます）	公民館保育員	事前に年度単位の申請が必要
自主保育（公民館内での活動の際、保育者を自分達で決めて保育する）		１回２時間以内／公民館開館時間内	―	自分達で決めた保育者（例：サークルの仲間・ボランティアなど）	あらかじめ公民館に相談・手続が必要（随時）

・・・誰でも使えるの？

西東京市内在住（国籍問わず）の、生後6か月から就学前の乳幼児です。利用方法は上の表の3通りです。

＊各公民館には保育室の案内冊子があります。詳細が知りたい方はご覧ください。

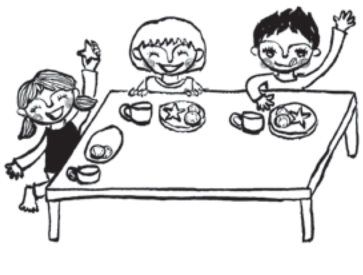
「さよならあんころもち♪」でお帰りのごあいさつ

★ある日の保育室のようす★

保育室では子どもはどんな時間をすごしているのかな？

❶ 9：50
お母さんは学習室。子どもは保育室へ。

❷ 10：00～
異年齢の子どもたちが、なかまの中で育ちあいます。



❸ 10：50
みんなでおやつの準備。みんなそろって「いただきます」。

❹ 12：00
お迎えの時間。保育員が、今日の様子をお母さんに伝えます。

保育室利用者の声

ヒロコさん

「迎えに行くとニコニコ顔で母の胸に子どもたちが飛び込んでくるんですよ。新しいお友達と遊びの輪も広がったようです」

ミキさん

「保育室でたくさんのお友達や保育員さんと遊ぶことにより、子どもがますます成長しました」

リツさん

「子どもを気にしないで自分の活動ができることが、すごくうれしかったです」

＊イラストはひばりが丘公民館で活動中の子育てママサークルKompisのマキコさんが描いてくれました。

表★の学習支援保育の申請を希望するグループは、２面をご参照ください。

サークル訪問

「ブラックライトシアターSUB（サブ）」

真っ暗な部屋の中で、蛍光塗料入りの絵の具で塗った絵に紫外線のライトを当てると、絵が輝いてくっきりと浮かび上がります。この仕組みを利用して、子ども達に幻想的な夢の空間を届けているのが、谷戸公民館を拠点に活動するブラックライトシアターSUBの皆さんです。

同会は、「ひばりが丘団地自治会たんぽぽ幼児教室」に子どもを通わせていたお母さんの有志が集まり、1997年に発足。現在は未就園児の幼児教室や幼稚園、小学校等の依頼により、年間4～5回公演をしています。

反応を肌で感じて

ちょうど取材陣が訪れたのは、近隣の、とある小学校での公演の日。小学1年生100人近くが一室に集まりました。まずは手作りの大型絵本を読んで、子ども達の集中力を高めてから本番スタート。真っ暗にした室内に音楽が流れ、蛍光塗料を塗った絵が浮かび上がると、いっせいに歓声が上がりました。

途中楽しい手遊びをはさんで、後半の演目を演じるころには、子ども達の興奮は最高潮。どの子も前のめりになって食い入るように見ていました。この素直な反応が、サークルみんなのやりがいに結びついています。

メンバーの田辺さんは、「子ども達が感動してくれているのを肌で感じ、自分も感動しちゃうんです。やっていて良かったって思う瞬間です」と語ります。

共に活動できる幸せ

結成から14年。当初は我が子を連れて毎週練習にいそしみましたが、その子達もすっかり大きくなりました。今はメンバーの誰もが仕事を持つようになり、公演の1か月半前から夜間に集まって練習をするというペースで活動を続けています。

「練習後の語らいが楽しいんですよ。それぞれ住む地域も年齢も違いますが、素敵な仲間なんです。みんながいたからやってこられました」と、山田さんが語るように、活動を通して仲間とのつながりが豊かに息づいているのを感じました。

サークル名にSUB（サブ）という名をつけた結成時からの理想通り、これからもリーダーをおかず、12人のメンバー全員がサブリーダーとなり会を支えていくことでしょう。

公演依頼は、2か月前までに。日程が合えば、公演が可能です。ご相談ください。

連絡先 森田☎422・5778